読売歌壇

小池　光　選

小さき手に鉄鉱石を握りしめお湯で溶かすと五歳児は言ふ　瑞穂市　渡部　芳郎

【評】こどもはときどきびっくりするようなことを言って、身辺を驚かせる。鉄鉱石というものをもらって、嬉しくて、お湯で溶かすという。夢がある話だなあ。

よく冷えた大きな西瓜切る時のあのワクワクはどこへ行ったか　福山市　宇田　雍子

【評】冷蔵庫がまだそんなに普及しなかったころ、スイカなどは井戸に吊るして冷やしたものだった。あのころの純粋なワクワク感が懐かしい。家族もたくさんいて。

年老いて吾は「流浪の民」のよう歌うたいつつ林に入る　小平市　栗原　良子

【評】シューマン作曲の名曲。むかし学校で習った。老境となった今、それを口ずさんで散歩する。林に入る、というところが印象的。

終戦日「わだつみのこえ」読み返す忘れはしない君たちの死を　牛久市　藤代　省吾

リタイア後文学少年少女らが目覚めて送る歌壇俳壇　白井市　毘舎利道弘

「すきよりかもっとだいすき」老生を嬉し泣きさす孫は女の子　旭　市　工藤　豊

左手指なき岐阜商の横山君夫と応援夏の甲子園　藤枝市　北泊あけみ

なんやかやとありし就活子は終へて棚の赤べこ揺らして行きぬ　富山市　荒田真智子

手づかみで綿あめ分け合いし兄と不和になりたるままに死別す　北上市　佐々木清志

「おこしやす」と通されし席に二時間の清涼貪る(むさぼる)貴船川床　町田市　永井　悦子

栗木　京子　選

「せんじょう」は心に痛し戦場も降水帯も遠くであろうと　東京都　白波　悠子

【評】海外の戦場のニュース。国内で頻発する線状降水帯の怖さ。「せんじょう」という言葉のひびきに怯える。結句からは、離れた場所の惨事に心を寄せる大切さが伝わる。

毎朝の短歌配信家族ＬＩＮＥ編集長になった気分で　横須賀市　小菅あや子

【評】家族間のＬＩＮＥで毎日、短歌の配信をしている。自作の場合もあれば、気に入りの短歌を紹介することもあるのだろう。編集長としての作者の手腕が想像できる。

賞味期限二十五年の非常食喜寿を迎える父に贈りぬ　大阪市　畑　依裕

【評】保存方法が進化して賞味期限二十五年の非常食も登場した。二十五年後には百歳を超える父。長寿への願いも託されている。

膨らまぬままに終わった唐黍の畝を雀の遊び場に貸す　奈良県　藤本　京子

原発の岬の雲を切り裂いて雷駆けるつぎつぎ駆ける　大洲市　城戸　通宗

夫逝きてできなくなった半分こ林檎とパピコと扇風機の風　静岡市　簾田　淳美

朝霧の湧きたち満つる尾瀬ヶ原池塘の上に白き虹立つ　京田辺市　佐々木英夫

遠くから眺めてみればＳＥＩＹＵもＡＥＯＮも同じ夕焼けの色　札幌市　橘　晃弘

ラジオから体操の声流れきて茄子焼くグリルの傍で腕振る　佐世保市　鴨川　富子

親子孫五人のテニス楽しんだ日没前の涼しき時間　東京都　津田　鉄三

俵　万智　選

二本でも花束なんだと君が云う新居の家具はカラフルにする　東京都　やすふじまさひろ

【評】「二本でも花束」と言えるのだから「二人いれば私たちは花束」なのだ。よって花瓶としての新居に置く家具は、カラフルにする。「云う」「する」の二つの動詞がリズミカルで、弾む気持ちを伝えてくれる。

忘れものばっかしているほんとうに忘れたいものはそのままなのに　東京都　森下　治生

【評】うっかり者の自分にツッコミを入れながら、ふっと漏れる本音がせつない。

ＡＩが作ってくれた来年のカレンダーには五月がなかった　所沢市　里見　脩一

【評】単純なミスだろうか。最近のＡＩは、こちらの情報を蓄えて対応してくれるとも聞く。ならば、自分が五月を避けたい気持ちを見透かされたのかもしれない。

ジョギングより帰りて一首に仕立てをり頭に溜めたことば並べて　市原市　井原　茂明

その人の書く字はいつも淋し気でわずかな光が射す朝の森　横浜市　友常　甘酢

眠られず昨夜わたしが数へゐし羊か今朝の空にひろがる　枚方市　鍵山奈美江

ねぎらいのつもりと分かる真夜中に父から届く変なスタンプ　越谷市　秋山ともす

秋来ぬと目にはさやかに見えぬままお節注文納得出来ず　太田市　苑　子

カーナビに道なき道を真夜ぼくはきみに会うため走るジャガーだ　静岡市　柴田　和彦

紙袋に入るサイズの花束をもらって帰る退職の日に　東久留米市　中里　正樹

黒瀬　珂瀾　選

お盆だしビッタビタのツラウチのシャコタンが来て過ぎ去ってゆく　新潟市　水沢　穂波

【評】よく分かりませんが、車高がものすごく低くてタイヤも引っ込んでる改造車？　みたいな意味らしいです。カッコいい改造車に乗ってお盆に帰省してきたのでしょうか。業界用語を並べた迫力にウケてしまいました。

野放図に伸びるあけびの遊び蔓いくたび剪れば夏は逝かむか　稲城市　山口　佳紀

【評】この猛暑、元気なのはクズやフジやアケビの蔓ばかり。植物の生命力に圧倒される私たちは、早く夏が終われと祈るばかり。

をさな児の黙たう長き原爆忌きみの未来のいと明るかれ　松本市　武井　緋彩

【評】平和祈念式典で黙禱する幼子。戦争を体験せずとも、次の世代に記憶は受け継がれる。そして、未来に再び戦争あるな、の願い。

敗戦忌に白きふんどし干されたまるで白旗並ぶるがごと　鹿嶋市　加津牟根夫

少なくも分かち合えるを喜びと暮らした昭和の小さなちゃぶ台　千葉市　鈴木　啓子

ガリゴリと氷をかいた雪山にイチゴの雨が降る盆休み　北本市　漆野　香

アイヌ語をいくつか学び目は逸らす土地盗みたるその裔われは　東京都　吉田　岬

捨てられてなほ出航を待つごとく船の舳先は湖へ向く　京都市　峰尾　秀之

まなざしがまっすぐでない日もあって反抗期の子にカメラ向ければ　多治見市　加藤　香世

十八歳としなきゃよかった腕相撲つよいじいじで居たかったのに　真庭市　小谷　義孝

◇投稿規定◇　はがき１枚に未発表の１作品。住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌（俳）壇、○○先生（希望選者名）係または読売新聞オンラインから　◇毎週月曜日に掲載　右の影絵はけいろうのひ